

科目名	対位法Ⅰ	形態	演習	開講期	春学期
担当教員	田頭 優子	単位	1	年次	3

●授業科目の目標

対位法の音楽技法の習得を目標とする。

●授業内容

1. ガイダンス：シラバス（講義の目標や内容）の確認
2. 定旋律および対旋律について
- 3～4. 二声対位法（その1）全音符対全音符の実習
- 5～6. 二声対位法（その2）二分音符対旋律について
- 7～10. 二声対位法（その2）二分音符対旋律の実習
- 11～13. 二声対位法（その3）四分音符対旋律について
- 14～15. 二声対位法（その3）四分音符対旋律の実習

●履修上の条件及び履修の方法

五線紙持参

●試験方法及び成績評価方法

平常の学習状況、出席、ノート提出により評価する。

●テキスト（必携）

科目名	対位法Ⅱ	形態	演習	開講期	秋学期
担当教員	田頭 優子	単位	1	年次	3

●授業科目の目標

対位法の音楽技法の習得を目標とする。

●授業内容

1. ガイダンス：シラバス（講義の目標や内容）の確認。
- 2.～5. 四分音符対旋律の実習（確認）
6. 移勢対旋律について
- 7～8. 移勢対旋律の実習
9. 華麗対旋律について
- 10～11. 華麗対旋律の実習
- 12～14. バッハのインベンション分析
15. バッハのフーガ分析

●履修上の条件及び履修の方法

五線紙持参

●試験方法及び成績評価方法

平常の学習状況、出席、ノート（レポート）提出により評価する。

●テキスト（必携）

科目名	打楽合奏 I～Ⅷ	形態	実習	開講期	春・秋
担当教員	山口 恭範	単位	1	年次	1,2,3,4

●授業科目の目標

各種打楽器を用いた打楽器合奏曲の譜を読み、合奏の記譜や楽器の扱い方に慣れるよう読譜（初見）を主としての授業進行を行う。

大学特有の限られた楽器に限りなく近い作品を調査し授業の主体とする。
受講者の作曲も大いに歓迎し新しい感覚の作品誕生を、期待する。

●履修上の条件及び履修の方法

1人が1つの打楽器を受け持ちながら集合して行う合奏であるため、欠席によるパートの欠落をなくすべく、各奏者は約束された時間への集合を大切にすること。

●試験方法及び成績評価方法

アンサンブルは数人で一つの物を造り上げる性質ゆえ、個人の成績評価は演奏面では採点せず、準備の仕方、他人との協調、細部への気配りといった共同作業に必要な精神を評価の基とする。

●テキスト（必携）

●授業内容

学年度末の3月頃、打楽器アンサンブルコンサートが開催出来るためのレパトリーを目ざして、前期、後期との区別はつけず、各種各国の打楽器アンサンブル曲をとり上げる。

『春学期』

1回～5回 打楽合奏曲の譜読み
6回～10回 打楽合奏曲の譜読みに加え初見の曲も練習する
11回～15回 大学保有の楽器に適した楽曲の練習をする

『秋学期』

1回～5回 打楽専攻生の作品も取り上げ創造力も養う
6回～14回 年度末の打楽アンサンブルコンサートに向けて総仕上げにとりかかる。1年間の成果があげられるよう全員で取り組む。
15回 打楽アンサンブルコンサート開催

科目名	著作権法入門	形態	講義	開講期	春学期
担当教員	高橋 肇	単位	2	年次	1

●授業科目の目標

著作権をめぐる法的諸問題に対する理解を深めることを目標とする。講義は、とくに次の二つの軸に沿って進める予定である。一つは、いわゆる情報化社会の進展に伴ってあらたに生じてきた諸問題で著作権に関わる諸問題であり、もう一つは、音楽著作権に関わる諸問題である。

●履修上の条件及び履修の方法

講義の中で随時、感想文やレポートの提出を求めるので、必ず提出すること。履修生は、きちんと聴講し、かつ理解し、すべての感想文およびレポートを提出し、期末試験を受験すること。

●試験方法及び成績評価方法

学期末に行う試験以外に、学期途中で随時、感想文およびレポート提出を求める。指定の期限までに提出がない場合、成績を不可（D）とする。学期途中で提出された感想文およびレポート、ならびに期末試験の成績によって評価する。

●テキスト（必携）

書籍名：最新 音楽著作権ビジネス
著者名：鹿毛 丈司 出版社：ヤマハ ミュージックメディア

●授業内容

1. イントロダクション
2. 著作権とはなにか？
3. 著作物とはなにか？
4. 著作権法の概観(1)
5. 著作権法の概観(2)
6. 著作権の特質
7. 著作権法改正の経過(1)
8. 著作権法改正の経過(2)
9. 音楽産業と著作権(1)
10. 音楽産業と著作権(2)
11. 映像産業と著作権
12. マルチメディアと著作権(1)
13. マルチメディアと著作権(2)
14. 著作権法の将来
15. まとめ

科目名	DTM入門 A,B,D,E	形態	演習	開講期	春・秋
担当教員	大谷 安宏	単位	2	年次	1

●授業科目の目標

DTM(デスクトップミュージック)は、音楽制作の現場では欠くべからざる要素となっている。この授業では、DTMの楽譜制作について理解し、技術を習得する。習得した知識を作曲/編曲に役立てることができるようにする。

●履修上の条件及び履修の方法

常に演習を行っていく授業のため、欠席や遅刻は内容を習得していく上で妨げとなるので注意すること。
授業内での課題あり。
常に復習をおこなうようにすること。
メモ又はノートをとること。

●試験方法及び成績評価方法

実習をととして制作した作品を提出。
その達成度及び出席状況や受講態度を加味して評価をおこなう。

●テキスト(必携)

●授業内容

1. ガイダンス：シラバス(講義の目標や内容)の確認。DTMについて
2. 楽譜制作ソフトウェア(フィナーレ)の基本操作
3. 音符の入力 - 1 -
4. " - 2 -
5. " - 3 -
6. 音符の編集 - 1 -
7. " - 2 -
8. コードネームの入力
9. ドラム譜の入力
10. タブ譜の入力
11. テキスト入力
12. 楽譜に用いられる記号、図形、文字の入力 - 1 -
13. " - 2 -
14. レイアウトと印刷
15. 試験

科目名	DTM入門 C,F	形態	演習	開講期	春・秋
担当教員	大河内 俊則	単位	2	年次	1

●授業科目の目標

1. 音楽実務に必須な、楽譜の浄書作業を、浄書ソフトウェア Finaleを使用して実習し、基本的操作ができるようになる。
2. コンピュータが不可欠の現在、“デジタル”なコンピュータで、本来“アナログ”な音楽がどのように扱われているのかを、コンピュータへの音楽データの入力・演奏を通じて理解し、シーケンスソフトXG-WORKSの基本的操作ができるようになる

●履修上の条件及び履修の方法

授業時間外の自習作業が必要。また、やむを得ず欠席した場合は、出席者から進行状況を確認し、次週までに自習してください。授業時に配布する資料などは保管しません。

●試験方法及び成績評価方法

定期試験は行いませんが、授業中に制作する2つの課題(50%+50%)により評価します。

●テキスト(必携)

●授業内容

1. 授業概要、使用ソフトウェア概観
2. Finale：導入、音符の基本入力
3. Finale：高速ステップ入力詳細
4. Finale：装飾音符、レイヤ
5. Finale：五線をまたぐ音符、その他ツール
6. Finale：変形図形、発想記号
7. Finale：アーティキュレーション、反復記号
8. Finale：歌詞、ブロック編集(移調、コピー)、レイアウト
9. Finale：総合演習
10. XG-Works：導入、演奏機能の確認、スタンダードMIDIファイル
11. XG-Works：データ入力1(音高、音長、ベロシティ)
12. XG-Works：データ入力2(コントロールデータ)
13. XG-Works：データ入力3(テンポ、ピッチベンド、プログラムチェンジ)
14. XG-Works：総合演習
15. XG-Works：まとめ

科目名	電子オルガンアンサンブルⅠ	形態	実習	開講期	春学期
担当教員	稲垣 智保	単位	1	年次	2

●授業科目の目標

小編成のクラシック音楽のアンサンブルを通して、リズム感、演奏表現、バランス感覚を身につける。

●履修上の条件及び履修の方法

アンサンブルなので、欠席をしないこと。体調管理も勉強です。演奏する為の準備（練習、楽譜の整理など）を怠らない。

●試験方法及び成績評価方法

授業での演奏の準備と、協調性により評価する。欠席が1/3を超える場合は、出席不足による受験資格喪失とみなします。

●テキスト（必携）

●授業内容

1回 授業ガイダンス 初見演奏によるアンサンブル
2～5回 弦楽アンサンブル
6～9回 ピアノを含む編成のアンサンブル
10～14回 木管・金管を含む編成のアンサンブル

科目名	電子オルガンアンサンブルⅡ	形態	実習	開講期	秋学期
担当教員	稲垣 智保	単位	1	年次	2

●授業科目の目標

大編成のクラシック音楽のアンサンブルを通して、演奏表現、スコアリーディング、電子オルガン演奏の応用力を身につける。アンサンブル指導を通してアンサンブル全体を把握する能力を養う。

●履修上の条件及び履修の方法

アンサンブルなので、欠席をしないこと。体調管理も勉強です。演奏や指導の実践をする為の準備（練習、楽譜の整理、楽曲分析など）を怠らない。

●試験方法及び成績評価方法

授業への準備と、協調性により評価する。欠席が1/3を超える場合は、出席不足による受験資格喪失とみなします。

●テキスト（必携）

●授業内容

1回 パート割り
2～5回 楽曲分析とアンサンブル
6～7回 仕上げ
8～14回 アンサンブル指導の実践

科目名	電子オルガンアンサンブルⅢ・Ⅳ	形態	演習	開講期	春・秋
担当教員	水野 修平	単位	1	年次	1,2

●授業科目の目標

ジャズの基本であるSwing Beatを基にスタンダード、ジャズオリジナル等の楽曲を様々なアンサンブル形態で（即興）演奏できるようにする。

●履修上の条件及び履修の方法

ピアノ及びギターでの参加希望者はテンションを含んだコード知識があること。

●試験方法及び成績評価方法

楽曲の編曲と演奏（即興演奏も含む）。

●テキスト（必携）

特に指定はありませんが様々なスタンダード、ジャズオリジナルの載っている曲集（リアルブック）を各自用意できると良いです。

●授業内容

春学期

- 1～5回 ジャズバンドにおける各楽器の役割、仕組みを確認して簡単なフォームの曲（ブルースなど）を演奏する。
 6～10回 難易度の高い曲（キー、テンポ、コード進行など）を用いて演奏してみる。
 11～15回 コード進行に対してリハーモナイズの可能性を考えたり、曲にアレンジをして演奏してみる。

秋学期

- 1～5回 管楽器で2、3声のアレンジを各自考えてきて演奏してみる。
 6～10回 各自スタンダード曲にアレンジをしたり、自作曲を作ってきて演奏してみる。
 11～15回 変拍子、様々なリズム、キーや様々な練習法に挑戦してみる。

科目名	ドイツ語会話Ⅰ	形態	演習	開講期	春学期
担当教員	越智フェリシタス	単位	1	年次	2

●授業科目の目標

日常生活に役立つ会話のパートナー練習を通し、実際にドイツに行ってもためらわずドイツ語を話せる力を身につけます。

●履修上の条件及び履修の方法

躊躇せずにドイツ語で会話を楽しむ姿勢。

●試験方法及び成績評価方法

口頭試験60%、筆記試験20%、授業への参加20%

●テキスト（必携）

書籍名：ドイツってすてき！ 著者名：荻野歳平、Andrea Raab
 出版社：朝日出版社

●授業内容

- 1回 ガイダンス：シラバス（講義の目標や内容）の確認
 2回 空港での出迎え：人称代名詞と規則動詞の現在人称変化
 3回 ミュンヘン市内までのドライブ：名詞の性・定冠詞と不定冠詞の格変化
 4回 ホストファミリーの紹介：sein, habenとwerdenの現在人称変化
 5回 ホストファミリーの住まい：名詞の複数形と格変化
 6回 クラスメートとの会話：不規則動詞の現在人称変化・命令形
 7回 講座主任との会話：人称代名詞の3格と4格・疑問代名詞
 8回 前半のまとめ・ドイツのドキュメンタリー映画観照
 9回 ドーナウ川での散歩Ⅰ：前置詞の格支配
 10回 ドーナウ川での散歩Ⅱ：定冠詞類、不定冠詞類
 11回 レストランにてⅠ：否定文・否定の疑問文の考え方・男性弱変化名詞
 12回 レストランにてⅡ：接続詞
 13回 郵便局にてⅠ：分離動詞・非分離動詞
 14回 郵便局にてⅡ：話法の助動詞
 15回 定期試験

科目名	ドイツ語会話Ⅱ	形態	演習	開講期	秋学期
担当教員	越智フェリシタス	単位	1	年次	2

●授業科目の目標

日常生活に役立つ会話のパートナー練習を通し、実際にドイツに行ってもためらわずドイツ語を話せる力を身につけます。

●履修上の条件及び履修の方法

躊躇せずにドイツ語で会話を楽しむ姿勢。

●試験方法及び成績評価方法

口頭試験60%、筆記試験20%、授業への参加20%

●テキスト（必携）

書籍名：ドイツってすてき！ 著者名：荻野蔵平、Andrea Raab
出版社：朝日出版社

●授業内容

- 1回 ガイダンス：シラバス（講義の目標や内容）の確認。
- 2回 スーパーでの買い物：未来の助動詞werden・非人称esの用法
- 3回 市場での買い物：形容詞の格変化
- 4回 誕生日パーティーⅠ：比較変化・形容詞の名詞化
- 5回 誕生日パーティーⅡ：再帰代名詞・再帰動詞
- 6回 医者診察：動詞の三基本形・過去人称変化
- 7回 薬局にて：現在完了・過去完了
- 8回 前半のまとめ・ドイツのドキュメンタリー映画観照
- 9回 駅にて：未来完了・話法の助動詞の三基本形
- 10回 ホテルのフロントにて：zu不定詞の用法
- 11回 ドイツ人旅行者との会話Ⅰ：受動態
- 12回 ドイツ人旅行者との会話Ⅱ：関係代名詞・指示代名詞
- 13回 空港での別れⅠ：接続法Ⅰ式
- 14回 空港での別れⅡ：接続法Ⅱ
- 15回 定期試験

科目名	ドイツ語基礎ⅠA	形態	演習	開講期	春学期
担当教員	今津 哲郎	単位	1	年次	1

●授業科目の目標

ドイツ語のやさしい文章テキストを中心に、発音練習、文法を理解、慣用的な言い回しの練習をします。さらに、辞書を使用しての簡単な文章の読解力と表現力の習得も目指します。併せてドイツ語の歌を読み、訳し、歌うことも目標とします。

●履修上の条件及び履修の方法

予習復習を必ずして下さい。遅刻、私語、居眠、携帯電話等、授業に相応しくない行為はしないこと。場合によって退出をしてもらいます。注意しても改めない時は受験資格を失います。テキスト、辞書は必ず持参して下さい。テキスト、辞書がないと出席できません。（ただし、辞書は授業で紹介しますので、その後で購入してください。）

●試験方法及び成績評価方法

およそ平常点40%、定期試験60%の割合で、総合的に評価する。平常点は授業の参加度、小テストなどで評価する。遅刻、私語、居眠、教科書・辞書不携帯などは減点対象になる。

●テキスト（必携）

書籍名：ヴェーラとヴェルナー・新改訂版
著者名：在間 進、他 出版社：朝日出版社

●授業内容

1. ドイツ語とは+アルファベット
2. 発音 (1)
3. 発音 (2)
4. 発音 (3)
5. 人称代名詞と動詞の現在人称変化 (1)
6. 同上
7. 冠詞と名詞の格変化
8. 同上
9. 人称代名詞と動詞の現在人称変化 (2)
10. 同上
11. 前置詞の各支配
12. 同上
13. 名詞の複数形
14. 冠詞類の格変化
15. 課題練習

科目名	ドイツ語基礎 I B,C	形態	演習	開講期	春学期
担当教員	越智フェリシタス	単位	1	年次	1

●授業科目の目標

発音の基礎の習得とヒヤリングの訓練を重視します。短い対話をもとに基礎文法を学びます。

●履修上の条件及び履修の方法

各自家で発音練習を行ってほしい。短い対話も暗記すること。

●試験方法及び成績評価方法

筆記試験60%、口頭試験20%、授業への参加20%

●テキスト（必携）

書籍名：ドイツ語インフォメーション（改訂版）
著者名：秋田静夫 他、出版社：朝日出版

●授業内容

- 1回 ガイダンス：シラバス（講義の目標や内容）の確認
- 2回 基礎発音練習 挨拶言葉
- 3回 自己紹介：人称代名詞・規則動詞の現在人称変化・平叙分の語順
- 4回 パーティーへの招待：疑問文の語順
- 5回 いろいろな趣味：名詞の性
- 6回 服を買う：名詞の複数形・数字
- 7回 身近な物を買う：定冠詞と名詞の格変化
- 8回 前半のまとめ・ドイツのドキュメンタリー映画観照
- 9回 飲み物を注文する：不定冠詞と名詞の格変化
- 10回 家族の紹介：不定冠詞、所有冠詞と名詞の格変化
- 11回 旅行：不規則動詞の現在人称変化（I）
- 12回 世界の言葉：疑問代名詞の使い方
- 13回 レストランにて：不規則動詞の現在人称変化（II）
- 14回 天候表現：人称代名詞の格変化・非人称主語のes
- 15回 定期試験

科目名	ドイツ語基礎 I D	形態	演習	開講期	秋学期
担当教員	今津 哲郎	単位	1	年次	1

●授業科目の目標

ドイツ語のやさしい文章テキストを中心に、発音練習、文法を理解、慣用的な言い回しの練習をします。さらに、辞書を使用しての簡単な文章の読解力と表現力の習得も目指します。併せてドイツ語の歌を読み、訳し、歌うことも目標とします。

●履修上の条件及び履修の方法

予習復習を必ずして下さい。遅刻、私語、居眠、携帯電話等、授業に相応しくない行為はしないこと。場合によって退席をしてもらいます。注意しても改めない時は、受験資格を失います。テキスト、辞書は必ず持参して下さい。テキスト、辞書がないと出席できません。（ただし、辞書は授業で紹介しますので、その後で購入してください。）

●試験方法及び成績評価方法

およそ平常点40%、定期試験60%の割合で、総合的に評価する。平常点は授業の参加度、小テストなどで評価する。遅刻、私語、居眠、教科書・辞書不携帯などは減点対象になる。

●テキスト（必携）

書籍名：ヴェーラとヴェルナー・新改訂版
著者名：在間 進、他 出版社：朝日出版

●授業内容

1. ドイツ語とは+アルファベット
2. 発音 (1)
3. 発音 (2)
4. 発音 (3)
5. 人称代名詞と動詞の現在人称変化 (1)
6. 同上
7. 冠詞と名詞の格変化
8. 同上
9. 人称代名詞と動詞の現在人称変化 (2)
10. 同上
11. 前置詞の各支配
12. 同上
13. 名詞の複数形
14. 冠詞類の格変化
15. 課題練習

科目名	ドイツ語基礎ⅡA	形態	演習	開講期	秋学期
担当教員	今津 哲郎	単位	1	年次	1

●授業科目の目標

春学期に続いて、ドイツ語のやさしい会話テキストを中心に、発音練習、文法の理解、慣用的な言い回しの練習をします。さらに、辞書を使用しての簡単な文章の読解力と表現力の習得も目指します。併せてドイツ語の歌を読み、訳し、歌うことも目標とします。

●履修上の条件及び履修の方法

予習復習を必ずして下さい。遅刻、私語、居眠、携帯電話等、授業に相応しくない行為はしないこと。場合によっては退出してもらいます。注意しても改めない時は、受験資格を失います。テキスト、辞書は必ず持参して下さい。テキスト、辞書がないと出席できません。(ただし、辞書は授業で紹介しますので、その後で購入してください。)なお、ドイツ語基礎Ⅰの単位修得者のみ履修可。

●試験方法及び成績評価方法

およそ平常点40%、定期試験60%の割合で、総合的に評価する。平常点は授業の参加度、小テストなどで評価する。遅刻、私語、居眠、教科書・辞書不携帯などは減点対象になる。

●テキスト(必携)

書籍名：ヴェーラとヴェルナー・新改訂版
著者名：在間 進、他 出版社：朝日出版社

●授業内容

- 前置詞
- 話法の助動詞
- 分離動詞
- 命令形
- 時刻表現
- 形容詞の格変化
- 復習
- 再帰動詞
- 動詞の三基本形
- 過去形 現在完了
- 補足：受動態
- 補足：関係代名詞
- 補足：接続法
- 春・秋学期まとめ
- 課題練習

科目名	ドイツ語基礎ⅡB,C	形態	演習	開講期	秋学期
担当教員	越智フェリシタス	単位	1	年次	1

●授業科目の目標

春学期に引き続き、発音を重視し短い対話を練習しながら基礎文法を身につけます。

●履修上の条件及び履修の方法

各自家で発音練習を行ってほしい。短い対話も暗記すること。

●試験方法及び成績評価方法

筆記試験60%、口頭試験20%、授業への参加20%

●テキスト(必携)

書籍名：ドイツ語インフォメーション(改訂版)
著者名：秋田静夫 他、出版社：朝日出版

●授業内容

- 1回 ガイダンス：シラバス(講義の目標や内容)の確認
- 2回 道を訪ねる：場所を表す前置詞
- 3回 待ち合わせする：時を表す前置詞
- 4回 ホテルの予約：話法の助動詞の現在人称変化(Ⅰ)
- 5回 許可を求める：話法の助動詞の現在人称変化(Ⅱ)
- 6回 乗車券と買う：時刻表現
- 7回 道を案内する：分離動詞の現在人称変化・命令形
- 8回 前半のまとめ・ドイツのドキュメンタリー映画観照
- 9回 色彩：形容詞と名詞の格変化
- 10回 興味を表現する：再帰代名詞と再帰動詞
- 11回 一日のながれ：動詞の三基本形・seinとhabenの過去形
- 12回 手紙の書き方：規則動詞と不規則動詞の過去形
- 13回 食べ物の味：他動詞の現在完了
- 14回 コンサートやオペラの感想：自動詞の現在完了
- 15回 定期試験

科目名	ドイツ語基礎ⅡD	形態	演習	開講期	春学期
担当教員	今津 哲郎	単位	1	年次	1

●授業科目の目標

春学期に続いて、ドイツ語のやさしい会話テキストを中心に、発音練習、文法の理解、慣用的な言い回しの練習をします。さらに、辞書を使用しての簡単な文章の読解力と表現力の習得も目指します。併せてドイツ語の歌を読み、訳し、歌うことも目標とします。

●履修上の条件及び履修の方法

予習復習を必ずして下さい。遅刻、私語、居眠、携帯電話等、授業に相応しくない行為はしないこと。場合によっては退出してもらいます。注意しても改めない時は受験資格を失います。テキスト、辞書は必ず持参して下さい。テキスト、辞書がないと出席できません。(ただし、辞書は授業で紹介するので、その後で購入してください。)なお、ドイツ語基礎Ⅰの単位修得者のみ履修可。

●試験方法及び成績評価方法

およそ平常点40%、定期試験60%の割合で、総合的に評価する。平常点は授業の参加度、小テストなどで評価する。遅刻、私語、居眠、教科書・辞書不携帯などは減点対象になる。

●テキスト(必携)

書籍名：ヴェーラとヴェルナー・新改訂版
著者名：在間 進、他 出版社：朝日出版社

●授業内容

- 前置詞
- 話法の助動詞
- 分離動詞
- 命令形
- 時刻表現
- 形容詞の格変化
- 復習
- 再帰動詞
- 動詞の三基本形
- 過去形 現在完了
- 補足：受動態
- 補足：関係代名詞
- 補足：接続法
- 春・秋学期まとめ
- 課題練習

科目名	ドイツ語中級Ⅰ	形態	演習	開講期	春学期
担当教員	越智フェリシタス	単位	1	年次	2

●授業科目の目標

ドイツの日常生活のひとこまを用いた短いテキストや対話をもとに基礎文法を復習します。同時にドイツと日本との文化の違いへの理解を深めます。

●履修上の条件及び履修の方法

異文化に興味を持つこと。

●試験方法及び成績評価方法

筆記試験80%、授業への参加20%

●テキスト(必携)

書籍名：はじめてのドイツ使えるドイツ語表現(改訂版)
著者名：河合節子、他 出版社：三修社

●授業内容

- ガイダンス：シラバス(講義の目標や内容)の確認
- 挨拶言葉：基本発音の復習・人称代名詞・動詞の現在人称変化
- 自己紹介：重要な不規則動詞・文の作り方
- ドイツ的住まい方：名詞の性と冠詞、定冠詞類、不定冠詞類
- 家族の紹介：不規則動詞・人称代名詞の格変化・否定文の作り方
- 身近な物を買う：定冠詞、不定冠詞と名詞の格変化
- 服を買う：数字・定冠詞類、不定冠詞類の格変化
- 前半のまとめ・ドイツのドキュメンタリー映画観照
- カフェで飲み物を注文する：名詞の複数形
- ベルリンの町並み：前置詞
- 道案内：話法の助動詞
- 天候表現、動物の鳴き声：不定代名詞のman・非人称主語のes
- 電話の仕方：間接疑問文・zu不定詞・否定疑問文の答え方
- パーティーとマナー：接続詞、従属接続詞と副文
- 定期試験

科目名	ドイツ語中級Ⅱ	形態	演習	開講期	秋学期
担当教員	越智フェリシタス	単位	1	年次	2

●授業科目の目標

春学期の続きで、ドイツの日常生活を話題にするテキストや対話をもとに基礎文法を復習します。同時にドイツと日本との文化や価値観の異なる点への理解を深めます。

●履修上の条件及び履修の方法

異文化を広い心で見える姿勢。

●試験方法及び成績評価方法

筆記試験80%、授業への参加20%

●テキスト（必携）

書籍名：はじめてのドイツー使えるドイツ語表現（改訂版）
著者名：河合節子、他 出版社：三修社

●授業内容

- 1回 ガイダンス：シラバス（講義の目標や内容）の確認
- 2回 オペラ見物、芝居演目：動詞の三基本形・過去形・現在完了形
- 3回 チケットを買う：前置詞と代名詞の融合型
- 4回 ドイツ鉄道の旅：分離動詞・時刻表現
- 5回 駅のプラットホームにて：非分離動詞
- 6回 ホテルのフロントにて：形容詞の格変化・日付の言い方
- 7回 バイエレンとプロイセン：比較の表現
- 8回 前半のまとめ・ドイツのドキュメンタリー映画観照
- 9回 医者診察：再帰代名詞と再帰動詞
- 10回 ドイツの学校制度：受動態
- 11回 ディスカッション（賛成、反対、意見を聞く）：接続法Ⅱ式
- 12回 地球温暖化について：接続法Ⅰ式
- 13回 手紙の書き方：定関係代名詞、不定関係代名詞
- 14回 ベルリンのファッション：過去完了形
- 15回 定期試験

科目名	道徳教育論 A,B	形態	講義と演習	開講期	春・秋
担当教員	浅田 邦穂	単位	2	年次	3

●授業科目の目標

- ・子どもの道徳性をどのように育成するかという観点から、道徳教育の理念と実践について具体的事例を交え、その在り方を理解する。
- ・道徳の時間における指導を工夫することができるようにする。

●履修上の条件及び履修の方法

- ・教職免許取得上の必修科目である。教師になろうという強い気持ちがあること。子どもの心の問題について学び、その解決の一端を道徳の授業から考え、具体的な指導法を工夫する。
- ・講義が中心となるが、道徳の授業について、演習形態をとることもある。

●試験方法及び成績評価方法

- ・授業には積極的に参加し、意欲的に学び、考えようとする姿勢を評価する。
- ・講義内でのレポート内容を評価する。
- ・期末試験による評価を行う。
(授業への出席が3分の2を不足する場合、受験資格は認めない)

●テキスト

- ・教育実習の手引き（平成23年度版）名古屋音楽大学編
- ・中学校学習指導要領解説 道徳編 文部科学省

●参考資料

●授業内容

- 1回 ガイダンス（講義内容、計画、方法等について）
- 2回 教職課程履修における道徳教育の価値
- 3回 道徳と道徳教育
- 4回 道徳性の発達と道徳教育
- 5回 社会の変化と道徳教育
- 6回 道徳の目標
- 7回 道徳教育の内容
- 8回 道徳内容項目の指導の観点Ⅰ
- 9回 道徳内容項目の指導の観点Ⅱ
- 10回 道徳の時間における指導Ⅰ
- 11回 道徳の時間における指導Ⅱ
- 12回 道徳学習指導案の内容と作成
- 13回 道徳学習指導案演習
- 14回 道徳の授業を工夫する。
- 15回 まとめ（道徳教育論から学んだこと）

科目名	特別活動論 A,B	形態	講義	開講期	春・秋
担当教員	浅田 邦穂	単位	2	年次	3

●授業科目の目標

特別活動の学校教育で担う役割や活動内容について具体的に理解する。
特別活動を指導するための理念と知識及び具体的実践の方法を知る。

●履修上の条件及び履修の方法

- ・学校教育全般の教育活動を学ぶと共に、特別活動の教育的価値を理解し、具体的な実践を自分なりに考え工夫しようとする意欲を備えていること。
- ・学校における特別活動を理解するための講義が中心となる。特別活動において、自分の意見を具体的な場面でどう生かすかについて話し合う演習の場を設ける。

●試験方法及び成績評価方法

- ・授業には積極的に参加し、学ぼうとする姿勢を評価する。
- ・講義内でのレポート内容を評価する。
- ・期末試験による評価を実施する。
(授業への出席が3分の2を不足する場合、受験資格は認めない)

●テキスト

教育実習の手引き（平成23年度版）名古屋音楽大学編
中学校学習指導要領解説 特別活動編 文部科学省

●参考資料

●授業内容

- 1回 ガイダンス（講義内容、計画、方法等について）
- 2回 教職課程履修における特別活動論の位置づけ。特別活動とは
- 3回 特別活動の役割 特別活動の教育的意義
- 4回 これからの学校教育と特別活動
- 5回 特別活動の変遷
- 6回 特別活動の目標
- 7回 特別活動の内容概略と関連
- 8回 学級活動の目指す生徒
- 9回 学級活動の内容
- 10回 生徒会活動の目指す生徒と内容
- 11回 学校行事の目指す生徒と内容
- 12回 特別活動の指導計画
- 13回 特別活動の指導案の作成（学級活動を中心として）
- 14回 特別活動の評価、これからの特別活動
- 15回 まとめ（特別活動論から学んだこと）